

山形の母なる川

最上川

山形県倫理法人会
広報ものがみかわ

令和3年2月26日発行

www.yamagata-rinri.net

vol. **64**

広報
最上川
vol. **64**

【発行】山形県倫理法人会
【発行人】晋道純一 【編集人】土屋忠彰

【表紙題字】中村俊光氏



令和三年度会長挨拶 晋道純一
動けば新しい景色が
見えてくる p.2

倫理経営企業訪問・えがおのげんば
カイロプラクティック
設楽整体院 p.47

一般社団法人 倫理研究所
山形県倫理法人会

モーニングセミナー レポートキャラバン!

モーニングセミナーは一連の決まりに沿った基本を元にそれぞれの単会で工夫を凝らして運営しています。このコーナーでは各単会を回ってモーニングセミナーの様子をレポートします!

Report

北村山倫理法人会

毎週土曜 6時30分～

会場：さくらんぼ東根温泉
民謡の宿 あづまや



北村山倫理法人会では、モーニングセミナーのZoom配信を積極的に取り組んでおります。

会場では、Zoomで配信されているモーニングセミナーの様子とZoom参加者全員が講師の正面の壁に投影されています。さらに、高橋進一会長がZoom参加者お一人お一人に名前を呼びかけ、感謝の言葉をお伝えしております。そうすることで、会場参加者とZoom参加者がより一体感をもっていただける配慮をされているようです。

朝食は、あづまやさん2階の広間でいただきます。鑑兜、絵画などの美術品をみながら、心のこもった料理をいただきながらの講師の方とのお話も和やかに交わされます。そして朝食後には1階に移動して、女将が入れてくれたコーヒーをいただきながら、それぞれが講話者に質疑応答したり、仲間同士近況を報告したりと会話を楽しんでいるようです。

編集後記

山形県倫理法人会
広報委員長 土屋忠彰

今回から新しく始まった企画を『山形の風景「つなぐ挑戦」』というタイトルにしました。普段何気なく目にしていく風景というのは、ご先祖様や先人たちが代々受け継いできた生活、技、伝統、文化そのものではないかと思うことと、この風景を受け継ぐ先人たちの挑戦の歴史が詰まっていると思えたからです。今回お二人の取材を終えて、改めて山形の魅力はいっぱいあるということを感じました。



発行 山形県倫理法人会
〒990-0835 山形市やよい二丁目1-47
TEL.023-647-5582
FAX.023-646-7660
www.yamagata-rinri.net
発行日 令和3年2月26日



熊谷眞一氏が 二月八日 永眠されました

山形県を代表する偉大な経営者であり、文学者でもあったシベール創業者の熊谷眞一氏が二月八日亡くなられました。熊谷さんは大江町生まれで、高校卒業後、仙台、新潟、東京などで菓子職人の修行を経て、二十五歳の時、山形市緑町で洋菓子専門店を開店いたしました。店舗は間口が二七メートル、奥行き四・五メートルで一人だけの創業だったと伺っております。昭和四十五年にシベールを会社化して時を経て、ラスク製造が大きな転機となり、全国のラスクブームの立役者といっても過言ではありません。また山形県倫理法人会の設立に深く関わり、五代目会長としてご尽力され

た人でもあります。中でも寒河江市倫理法人会設立時には、本業を投げうって毎日寒河江市に赴き、新規会員拡大に全身全霊を傾け見事に設立を果たしたのです。熊谷さんは言わば今日の山形県倫理法人会の礎を創った第一人者であります。話は転じますが、私が創業間もないころに教示されたことがあります。それは、「晋道君!社長の仕事とは何ぞや。」と。私は、まったく答えられませんでした。そしたら熊谷さんから「社長の仕事とは、社長がいなくても大丈夫な会社を作ることですよ。」その言葉は、今でも会社の経営に対する心の姿勢となっております。ありがとうございます。もう熊谷さんとお会いできなかつと思うと寂しくてたまりません。在りし日のお姿を偲び心よりご冥福をお祈り申し上げます。
山形県倫理法人会 会長 晋道純一

山形県倫理法人会 第16回 会員大会

令和2年10月29日、第16回会員大会がリモート (ZOOM) で開催されました。

第1部では、通常の開催と同じように、開会の挨拶、倫理法人会憲章、会長挨拶の後、令和2年度の事業経過報告・会計報告・監査報告、令和3年度の事業計画・予算報告がありました。



新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催が中止となった主な県事業は、3月「富士研経営者倫理セミナー受講」、4月～8月「山形県倫理経営塾」、4月「朝礼委員会朝礼マスター研修」、5月「青年委員会七アクト講座」、6月「女性委員会 インプット&アウトプット会」など、他にも単会開催を含め多くの事業開催を見おくりました。

続いて7委員会及び倫理経営塾より令和3年度の活動方針発表がありました。令和3年度に入り、リアルとリモートのハイブリッド開催など、新たな方法にチャレンジして運営を行って参ります。



第2部では株式会社 和・学・美 (wa manabi) 代表取締役 酒井原ひとみ様を講師に迎え、「すぐに実践、ゼロから始める礼儀作法～納得！役立つ作法が身につく三つのポイント～」と題して講演会を開催しました。特にハッと気づかされたのは、多数参加のリモート会議の際でも、きちんと顔を見せるのがマナーというお話。肯きや笑顔のアクションもできるだけ大きく、リモートだからこそ安心感を醸成する必要があるとのことでした。その他にも会場で挨拶の基本姿勢実践など、人と会う機会が減っているからこそ一期一会を大事にする「礼儀」を学びました。



日本で最初に新型コロナウイルス患者が報告されたのは、二〇二〇年一月十六日です。コロナ禍は、今もなお国際社会と世界経済に大打撃を及ぼし続けております。反面、コロナ禍の中で三密回避や非接触型を余儀なくされた結果が、デジタルトランスフォーメーションを一気に加速させたことは何とも皮肉な結果です。山形県倫理法人会のモーニングセミナーもデジタルシフトにより集会型からオンラインやハイブリッド型開催、また県役員会と運営委員会もオンライン開催が常態化してきました。



動けば新しい景色が見えてくる

山形県倫理法人会会長 晋道 純一

てみましょう。動けば不思議と境遇が変わり、新しい景色が見えてきていつの間にか楽しくなるゾーンに入ってきます。私も過去に県の普及拡大委員長や新しく単会を設立する実行委員を拝命した時、最初の消極的感情から積極的感情にスイッチが入り、動けば動くほど人との出会いが面白くなり、だんだん楽しくなつてやり続けるうちに目標を達成した体験は幾度もあります。そして「やればできるんだ」という達成感と新たな自信に出会うことができました。私は、普及拡大の経験は自社の経営に今もしっかりと生きています。確信しております。パンデミックというコロナ禍だから動けないんだと否定的に考えがちですが、コロナ禍だからこそ今何ができるかを考えれば、打つ手は必ずあると前向きに捉えてみましょう。経営の神様と言われた現パナソニックの創業者である松下幸之助氏は、「苦難もまたよし」という前向きな格言を残しております。「もちろん、災難や苦難はないに越したことはないが思わぬときに思わぬことが起こってくる。だから苦難がくればそれもよし、順調ならばさらによしという心づもりを常に持ち、安易に流れず凡に墮さず、いずれのときにも心を定め、思いにあふれて人一倍の

知恵を絞り、人一倍の働きを積み重ねてゆくことが大切だと思う。」と伝えております。結びになりますが、一〇〇年に一度のパンデミックの時だからこそ、地球規模の大変革の時だからこそ大進化するチャンスと捉え、倫理活動と自社経営に「打つ手は無限」の実践は今しかありません。



鈴木隆一相談役が倫理研究所理事に

昨年11月20日に開催された倫理研究所の定時社員総会において役員改選が行われ、新たに山形県倫理法人会相談役の鈴木隆一相談役 (株式会社でん六 代表取締役社長) が理事に選任されました。47ある都道府県の中、我が県から理事が誕生したという名誉をここにお知らせいたします。



事業概要	
名 称	一般社団法人 倫理研究所
英文名称	Institute of Ethics
理事長	丸山敏秋
副理事長	前川啓雄
常任理事	新江章/和田 毅
監 査	理事(常勤) 吉川和義/大木武文
	理事(非常勤) 中川ヤスエ/野中真一郎/伏木久登/佐藤昭子/持山秀幸/鈴木隆一
	監事 藤原一三/前澤幸夫

※一般社団法人倫理研究所 HPより転載

えがおの げんば



■ えがおの人
山形県倫理法人会 女性委員長
設楽 美保子 氏
朝日町生まれ



■ えがおの現場
**カイロプラクティック
設楽整体院**

[代表] 設楽 美保子

[創業] 1995(平成7)年

[所在地] 山形市城西町 3-3-17

[事業内容] カイロプラクティックによる健康の普及・美容カイロとエステティックを用いた健康美の普及・健康管理士として、生活習慣病の予防の普及・同じ志を持つ人のリクルート普及と育成

[資格・役職] 健康管理士一般指導員、認定エステティシャン、日本カイロプラクティック連合会 講師会会員、zenkenkai (全国健康生活普及会)山形第2支部支部長、あいらくグループ 代表院長

「痛みを抱える人を健康にしたい」と、カイロプラクターとして休みなく活動する設楽美保子女性委員長。「いくら大変でも、喜んでくれる人がいればがんばれる」と笑顔で話す、設楽さんのこれまでの道は紆余曲折の連続でした。

同じ悩みを抱える人達の助けになりたい

二十歳から歩けないほどの腰や脚の痛みに悩まされてきました。基礎代謝が落ちて、食べなくても太るし、他の病気も発症してしまう状態。三人目を産んだ頃にはほぼ毎日がぎっくり腰のような、今考えるとよくあの体で生きていたなと思います。そんな時、カイロプラクターの知り合いから骨盤を矯正する下着をもらっ

たんです。驚くことに履いて三か月もすると痛みがなくなり、走れるまじになりました。痛みがあったときはあれほど憂鬱だったのに、元気になることがバラ色に見えてくる。健康であることの素晴らしさを心から実感しました。年齢にもよりますが、ほとんどの人は体の不調や痛みと付き合いながら生活していると思います。そうした悩みを抱える人の助けになればと、三十一歳の時にカイロプラクターを目指しました。



自分の存在意義を 求め続けた青春時代

広い世界を見てみたくて、高校卒業後に上京し、ロッチ商事に就職。勤めながら夜学に通いました。何のためにか。自分の生きている意

味を自問自答しながら、さまざまな葛藤の中で同級生や職場の人たちに支えてもらっていました。当時は大卒の女性が総合職として採用され始め、キャリアウーマンという言葉が生まれた頃。お茶汲みや資料の整理だけでなくできることがあるので

はと思い、大学卒業後に業務の配置換えを願い出ると、「今後、女性の起用を社会全体で考えていかなければならない時代になるので、営業をやってみないか。」と上司に提案されました。「営業は物だけでなく、自分という人間を売る仕事。これからの人生に役立つと思うよ」。その言

葉にやってみようと決意。ロッチ商事で初めての女性の総合職として、まるで砂漠地帯に放り投げられたような不安の中で、たくさんの学びも得ることができました。でも、仕事にのめり込むほどの生活を三年程続けていたら、泥沼にはまって踏ん張れなくなっている自分に気づいたんです。目指すものが見えていないため、やりがいも感じない。「踏ん張って歩んでいくためには、家族のような





後継者育成で求められたのは自身の改革

「ひと月に対応できる患者は百人」とされているこの世界で、多い時は四百人超の驚異的な人数の患者を受け入れていました。自分の身体に限界を感じながら続けていると、所属する会から後継者の育成を提案されます。一人でも多く育てれば、その分多くの人を元気にしてあげられます。しかし、技術を教えるだけでなく、人間性を育んでいくことが求められるこの仕事。自分では正しいと思っていたことが否定されることもあり、私自身の自己改革が求められていた頃と同じくして倫理法人会のことを知りました。

倫理との出会い

ある時、仲間の一人が、居酒屋の来店客に肩こりや腰痛が楽になるゲームを始めたことが話題になり、モーニングセミナーのゲストに呼ばれました。その報告を受けた時に、追い求めていた人格形成のこと、自分の学ぶべきことがそこにあるような

い、義父が現役で働いていたので、まずはカイロプラクターの資格を取ろうと決めました。最初に始めたのは、子どもたちに家事全般を教えること。五年間かけて資金を稼ぎ、三番目の子どもの小学校入学を待つて資格を取得しました。最初は出張施術をしましたが、義母は働きに出ることに反対で、頼りにしていた義父も癌に。

そこで、子ども部屋を使い、家事や介護、子育ての空き時間を利用して自宅で仕事をすることにしました。そこもまもなく手狭になり、義父の協力を得て自宅の車庫を施術院に改装し、本格的に整体院をスタートさせました。身をもって実感したのは、家族という背負う荷物があるからこそ、山に登っても滑らずに一步一步進んでいけるということですね。

背負う荷物があるからこそ進んでいける

いざ結婚して同居したものの、それからが大変。精神的に患っていた義母との生活は、これまでに経験した

ことのないすさまじい毎日でした。加えて、三人目が生まれてまもなく、夫の勤めていた会社が倒産。義母と同じ病を夫も発症してしまったんです。「子どもを守るために自分が働かなければ」という思いだけが強くなっていききました。とはいえ、状況を考えると長時間家を空けることはできません。先にお話した骨盤矯正の着を知ったのもその頃。幸

「疾病信号」は私の仕事そのもの

経営者が倫理感を持って働くことで、社員や周りの人たちの心を豊かにすることが出来ます。迷わず、自分が肅々とそして胸を張って、素直に学び、実践行動する事が社会貢献にも繋がっていくと思います。人育てる場合は「受け入れる」ことを意識。世代間ギャップがあっても、十年後を見据えたら、若い人たちの考えのほうがいいのかもしれない。ただ、自由ほど難しいことはないので、



目標や方向性はきちんとしてあげることが大事だと思っています。

倫理の十七カ条は声を出して読むほどに言葉が胸に染み入り、いつも自分の葛藤を押し鎮めてくれます。特に「疾病信号」は私の仕事そのもの。体調の悪さは日頃の生活を見直すことが大切で、カイロプラクターはその人の生活や習慣、生い立ち、悩みなど全てを受け入れてあげることが求められます。カイロプラクター一人ひとりが豊かな生活を送ることができ、カイロプラクティックを通して健康の和を広げていくことが最終目標です。

女性委員会に求められること

これからの時代、女性経営者抜きでは考えられません。背広を着た男性たちの存在が大き過ぎると、どうしても若い人たちが入りにくい空気

が生まれてしましますが、そこに明るい色の洋服を着た女性がいるだけで会の雰囲気は変わります。「...で、なければならぬ」という堅苦しさを変えていく必要性を気づかせてくれるのも女性です。女性会員が三割になれば活気が出てくるでしょう。男女、世代関係なく意見を出し合える、多様性のある会であってほしいと思います。自分の意見を言う女性が敬遠されるような、昔からの固定観念を打破するには様々な場所で女性会員が発言できる機会を持つことが大切。でしゃばるのではなく、会を活性化させていくことが女性委員会の役割だと考えています。一生をかけて学び、自分のペースで進んでいきましょう！



気がして倫理法人会の事務局に電話して入会しました。それ以前に、株式会社でん六の鈴木社長が倫理法人会を紹介した新聞記事を読んだ記憶とも重なり、企業経営者が入る会ならたくさん学びがあるだろうと興味を持ちました。



シリーズ
倫理会員企業が
拠点を置く
市町村を紹介
「今」を訊く ④ 米沢市
くらしみちの継承

先人の残した「宝」を磨き、
次世代に承継するまちづくり。

米沢市倫理法人会は設立二十周年という記念の年。コロナ禍により式典の開催は叶いませんでしたが、この地域行政連携企画第四回として、平成二十七年に米沢市長に就任され現在二期目を務められている中川勝市長にお話を伺う事ができました。(令和二年十二月七日取材)

■ 全ての分野にある宝

米沢は江戸時代から上杉の城下町としてのいわゆる「都市機能」が「備わってききました。特に、鷹山公以来の米織(米沢織)



この5月に新市庁舎が完成します

を始めとした産業振興、伝統民藝が歴史を経て、今もつてこの地に根付いています。上杉神社を拠点とする観光交流、米沢牛、伝統野菜、ラーメンなどの「食」

も含め、第一次、第二次、第三次とあらゆる産業で先人が気付き上げた「宝」があります。また八万足らずの人口で、三つの大学を有しており、県内外から多くの学生や教員が居住し学ぶ学園

都市でもあり、藩校興譲館から始まった「教育」も宝ですね。これらをもっと磨いて次世代に引き継ぐ為「米沢ブランド戦略」にも着手しています。

■ 「健康長寿のまちづくり」への想い

この高齢化社会において、年配の方々にも元気に地域の活性化の為に一役を担っていただきたいと願い「米沢市健康長寿のまちづくり推進条例」を策定しました。早めの健診を行い病気は早期治療しましょうという運動や、米沢栄養大学と協力し「減塩運動」の取り組みを始めています。健診受診率も少しずつ上昇してきました。「食・運動・早めの健診」で、健康長寿日本一の一歩一歩目指したいと思っています。



天元台高原



■ SDGsと鷹山公

次世代へ資源を引き継ぐという考えにおいてSDGs(持続可能な開発目標)は外せません。地球温暖化が問題とされている中、大きな原因である二酸化炭素の排出量を減らす「ゼロカーボンシテイ宣言」をしました。米沢は幸い山々の森林に囲まれ吸収の効果も見込まれますので、決して不可能な事では無いと考えます。実は、鷹山公がSDGsの先駆けなのでは?という研究も行わ



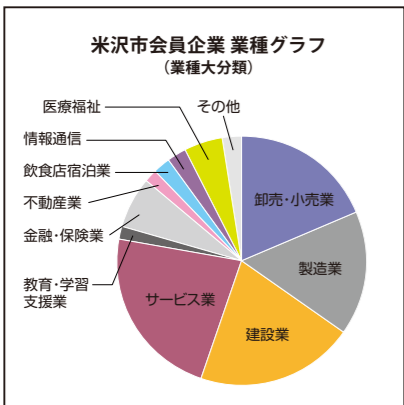
れています(PHP総研)。鷹山公が置賜全体に広めた「草木塔」は草や木に魂が宿ると教えた精神文化。つまりSDGsの実現に取り組み土壌があったのです。また、伝統産業、米織・笹野一刀彫り、人材育成「興譲館」が現在まで続いています。鷹山公は、「質素儉約」「貧しい」イメージが強く残されていますが、その頃に工夫し大切にしていた教えこそ、この不安定な時代に必要なものと改めて気づかされますね。

■ 座右の銘

・「積小為大」小さなものを一つ一つ積み上げて大きな事を成す、を実感します。
・謙信公の言葉「宝在心」。デジタル化は良い事ですが、進むと失われていくのが心。心のあり方を常に考えていきたいです。

■ オフの過ごし方

私の自由時間は早朝。今、家庭菜園を楽しんでいます。手をかければかけただけ、しっかりとした野菜や果物になります。また、スポーツは何でも好きでトライしま



■ 倫理法人会について

心を磨き上げる会ですね。世の中が便利になった反面、心と心のコミュニケーションが希薄になります。人間同士の関わりで生活している中、健全な心であることが大事。企業においても心がしっかり伴った事業であるかが大事ですね。是非仲間を増やして欲しいと思います。

● 好きな七カ条

- ① 日々好日
- ② 今日は最良の一日、今は無二の好機
- ③ この時間の集合体が一瞬、一日の集合体が一瞬になる。この時間の一瞬を大事にしたいです。
- ④ 「十三反始慎終
- ⑤ 本を忘れず、末を乱さず
- ⑥ 目まぐるしく変化する時代において「元は何だ」という事を忘れがちになります。根本的な事は忘れてはならないと思います。



左から土屋彰彰県広報委員長、米沢市遠藤一徳会長、中川勝米沢市長、島貫利春置賜地区長、宮下徹県普及拡大委員長

つなぐ挑戦

山形には、様々な困難を乗り越えて伝統の技や地域の産業を守り継ぐ職人や、将来を見据えチャレンジを続けるものづくり企業が多く存在します。不安定な今だからこそ、この「山形の宝」に改めて目を向け特集記事として紹介します。

有限会社畑田鐵工所

代表取締役畑田一志様

●創業時期と経緯

先代(実父)が十四歳位の時に修行に出て、十九歳で独立した年が昭和二十四年。この年が創業で私が二代目になります。

初めは鍛冶屋として鋳などを作っておりました。先代が新潟県の燕三条に行く機会があり、自分は一日四丁程度しか作れないのに比べ、プレスでどんどん作られているのを見て「これからは機械化だ」と確信し、徐々に機械化を進めてきて現在にいたっています。

●会社(事業)の特徴

切断から板金・機械加工、溶接まで、ある程度自社内で完結できるようにしています。



また三〜四年ほど前、マイクロバブル(微細な泡)を作り出す特許を持っている方より、この特許を使ってなにかできないかというご提案を頂き、商品開発を進めることになりました。更にその途中で、あるところからマッチングの話がきて、マイクロバブルを使ってレジオネラ菌を出さない大型の加湿器の開発ができないかというテーマを頂いて取り組み始め

ました。昨年完成し、その後医療の現場などで実験していただいて、おおむね良好であるという評価を得ました。一月下旬から複数の場所でもモニターをしていただく予定です。また、販売についてもこれまでになかったスキームで検討を始めています。

●これまで一番の困難は?

これまで苦難はいっぱいありましたが、今が一番の苦難の時ではないかなと思います。

通常の生産業務を行いながら同時に開発を進めることは非常に難しいことです。現場の皆にも苦労を掛けながら進めて参りました。実はコロナ禍が始まる一年前に主力のお取引先様の売上が七割減になりました。コロナ禍になってからその主力のお取引先様は回復したのですが、ほかの会社様が大変な状況になりました。また昨年の消費税が上がる直



所在地 / 〒997-0845 山形県鶴岡市下清水字内田元72-40
事業内容 / 農業機械の部品製作(全体の六割) ※庄内地方の地場産業

前のタイミングで設備投資を行ったのですが、これもまだ活かし切れていません。

●代々受け継ぎ、これからも大切にしていく事(思い)は?

これまで何度かくじけそうになりました。ここまで来ることができたのは大切にしてきた「思い」を持ち続けてきたことが大きいと思います。

当社では「報恩謝徳」という言葉掲げています。先代である父

は常々「お客様と社員に感謝しなさい」と言い続け、行動をしていました。二代目として社長就任した際に、父の姿を思い浮かべ改めて「恩徳の中に生きているのが今の我々だ」と思いを強くしました。生まれてきたという事実、今息をしているのも何をしているのも自分の意思ではなく、何ものかに生かされているということだと思



ます。「も」と「つ」がついているという意識が大切なのではないかと思えます。その認識がなければ乗り越えられるものも乗り越えられないのではないのでしょうか。

よく親祖先と繋がりなさいといいますが、そのもつと奥にあるもの、例えば、宇宙がありその中の小さな地球に、意味があつて我々は生まれてきています。その意味を考え、しっかりと仕事や生活を通じて役割を果たしていくのが人間本来のあり方ではないか

と思います。

●十七カ条で好きな言葉

第十七条…人生神劇

「神かと思えば人、人かと思えば神」まさにその通りと思います。我々も神の一部分であるという認識を持つて、物事に当たつていけばおのずと答えが出てくるのではないかと思います。



取材 Memo

秋山周三相談役が鶴岡市倫理法人会会長を任期満了で退任が決まったものの、後任が見つからない状況の当時。とある場所のテーブル席で、秋山周三相談役が畑田社長の前にずーっと座り、会長を受けると言うまで帰らない...という雰囲気を出されていたとの事。

秋山周三相談役という偉大な方の後に会長をうけることに大きなプレッシャーを感じられたそうです。それから月日が経ち、先日なぜか引き寄せられるように秋山鉄工に訪問した所、ちょうどその日が秋山周三相談役のご命日だったそうです。

刺し勇

●創業時期と経緯

二〇〇八年に作家としてデビューしました。その一年前、鶴岡市駅前で「庄内刺し子教室」を開いていた先生との出会いが始まりました。地元こんな素晴らしいものがあるというのを知り驚

小野寺勇一様

たと同時に、刺し子の定番である女性用小物だけでなく、私だったら現代に活きる面白いものを作れるかも...と。人から人へ、手から手に伝わってきた地元の文化に出会えた事がとてもありがたく、「庄内刺し子の文化を未来に繋ぐ

橋渡しの役割を担いたい」「全国へ広げる活動をしたい」と思いました。

●事業の特徴

庄内刺し子は、針目の集合体で模様を作ります。デザインのアウトラインをなぞっていく一般的な刺し子よりも大変細かい針仕事で、難易度が高いため担い手が育たず他の地域に広がりませんでした。そ



所在地 / 山形県鶴岡市外内島字石名田89-11
事業内容 / 庄内刺し子の製作・販売

んな経緯もあり、庄内刺し子のワークショップで使用するテキストは、担い手を増やしたいという

4地区 PICK UP NEWS

新型コロナ感染拡大により、これまでの運営がままならない中、倫理法人会の基本的精神に則り、各地で工夫をし新たな取り組みに挑戦しています。ここでは倫理活動の一部をピックアップして紹介いたします。



with コロナ
新しいコミュニケーションのあり方
新しい生活スタイルでの新たなコミュニケーション

令和2年 11月26日(木)
18:00-18:30-20:30
ホテルメトロポリタン山形

※参加費 4,400円 ※定員 1,000名
※オンライン参加 無料 要領

※講師
小野寺 さん
高橋 さん

去る十一月二十六日ホテルメトロポリタン山形にて、会場とZOOMを併用したハイブリッド式のイベントを開催し、会場に三十四名、ZOOMで四十五名と多数ご参加いただきました。セッションを一回に分け、講義を受講した後に各テーブルでワールドカフェスタイルのワークショップ。ZOOMではブレイクアールーム機能も使って、お互いに講義の感想を出し合い、「今気になっている事」をディスカッションしました。リアルとリモートの併用で行うワークショップは倫理法人会初の試み。準備を重ねてきましたが、当日改めて沢山の課題も見えて多くのご意見や励ましを頂きました。まずは新しい一歩を踏み出す事…このチャレンジを糧に更にコミュニケーションを進化させていきます。

広報・女性・青年委員会コラボ企画 「with コロナ 新しいコミュニケーションのあり方」

職場の教養

「職場の教養」10月号

「職場の教養」10月号の表紙は、布施将光社長（山形市中央会長）にお話を伺いました。

昨年晩秋に法人局から「暗いニュースが多い時代なので、新年一発目になる2021年一月の門出を明るく飾りたい」とお声がけ頂き、弊社が全国200万部を誇る「職場の教養」表紙を飾らせて頂く事になりました。ご覧になられた県内外の方や多くの倫友からお声がけ頂き、とても嬉しく感じた次第です。「社員一丸となり、創業400年を目指して三方よしの継承精神で取り組もう」と、改めて立志する機会を頂き感謝しています。

職場の教養 一月号の表紙 「布施将光社長（山形市中央会長） にお話を伺いました。」

●これまで一番の苦難は？
コロナ禍で売り上げがガクッと落ちました。困ったなと思いついていたある日、お世話になっていらっしゃる方から、庄内刺し子で作品を作るオンラインワークショップを勧められました。対面が楽しいので最初は気乗りしなかったものの、試しにやってみたら、手元の動きを接写する事でよりリアルに技術を見て頂けたり、国内はもとより海外からの参加者との出合いがありました。また、リモートを使うことで会場費を節約できたり、参加者の交通費や移動時間が不要になる利点もありました。固定概念を持たずに



取材 Memo

- ・小野寺さんは音楽が好きで、かつてインディーズバンドのプロデュースをされていたそうです。その頃出会ったバンドメンバー達の「伝えたい」という強い思いに接したことが感性の源になっているようです。
- ・倫理指導でご助言をいただいたとき「そんなことはできない」と反発を感じたそうです。が、次の瞬間「倫理指導をお願いしておきながら、できないというのは素直じゃない。自分のためにご助言してくれているのに」と反省。指導通りに行動を起こしたら、なんと雑誌「婦人画報」の取材がきたそうです。



思いも込め丁寧につけています。左利きの方向けのテキストも用意しています。

「みしよめでやる」（注：みしよめとは真面目という意味の庄内弁）。親から子へ、先生から生徒へと伝えられた庄内刺し子には、庄内の人の生真面目さが宿っています。「小豆三粒包める布は捨てるな。コメ三粒包める布は捨てるな」と、着物の繕い物から始まった刺し子。きつと日々工夫して針仕事も楽しく暮らしていたのでしよう。

トライするのも大切ですね。
●代々受け継ぎ、これからの大切にしていく事（思い）は？
真面目にやること。もの楽しくやること。ものを大切にすること。

●十七カ条で好きな言葉
第十三条／反始慎終
「世の常のことでも、親を大事にしない人は何ひとつ満足にできない。」この言葉を見たとき、ドキツとしました。幼少期、両親から「しえやみほどおっかないものないぞー」と言われていたのを思い出します。（注：「しえやみ」は庄内の方言で「ずぼら」の意）

山形地区
倫理法人会
イベント報告

お陰様で二十周年を迎えました

山形市倫理法人会会長 佐藤敬一
(株) エスバック

山形市倫理法人会が二十周年という大きな節目を、年内である令和二年十一月二十八日に開催することが出来ました。これまで会の運営にご協力頂いて参りました山形県各単会の皆様にご心より感謝申し上げます。

当初の事業計画では、五月二十一日に盛大に式典・記念講演会を予定しておりましたが、コロナ禍の中で政府による緊急事態宣言のもと、中止を余儀なくされたものでしたが、皆様のご協力で漸く蘇った式典でございます。倫理の趣意書には「日本の再建は単なる理論や掛声だけで出来るものではありません。目の前の一歩一歩を、明るく、正しく、喜んで、しっかりと踏みしめて行く、これ以外に道はありません。」



このように起草されております。この志のもと山形市倫理法人会は平成十二年五月十五日に産声をあげ、その思いを具現化すべく、ひたすら拡充の道を歩んで参りました。今後とも、山形県で一番最初の倫理法人会としての矜持をもって明るい社会づくりに邁進して参ります。



庄内地区
倫理法人会
気づきの報告

コロナのお陰で

庄内地区長 佐藤英夫
(有) 仏壇の佐藤

謎のウイルス、緊急事態宣言・クラスター等マスクが不安を煽りました。令和二年三月から全国のモーニングセミナーも中止。しかし「朝起き病」にかかっている倫友は黙っているはずがありません。毎朝四時にフェイスブック上で花野井勝浩SVが万人幸福の菜の解説をあげ、また各地ではモーニングセミナーの火を消さないよう札幌・東京・大阪：等非接触型のZOOMによるモーニングセミナーを始めました。これは画期的思い探り始めました。アナログのモーニングセミナーのWEB化は何度も失敗し非常に大変でしたが、「難

をれ」が頭をよぎり奮起。皆様の協力の元、四月二十九日から始めることが出来ました。すると何と多くの利点が：感染の危険性が無い、講師の移動時間、旅費交通費・宿泊費等が無い。PC・スマホでどこからでも参加できる。一方で「人は人でしか磨かれない」通り、リアルがありがたさにも気づきました。今では庄内地区のモーニングセミナーは全てリアル+WEBのハイブリット型に切り替え、新たな「厄災」が来ても対処できるように進化できました。これもコロナのお陰です。



庄内地区
リアル+WEB ハイブリッドモーニングセミナー

村山地区
倫理法人会
イベント報告

安寧を願いながら

北村山倫理法人会 広報委員長 蔵野真貴
（株） 福岡物産 様

十二月五日、民謡の宿あづまやさんにて村山地区女性委員会合同で、前年度に引き続き今年度も「しめ飾り作りを通し縁起文化を学ぶ」イベントが開催されました。しめ飾りには、新年に幸せを授けてくれる年神様をお迎えするため、また内側に邪気が入らない様にする結果の意味があります。しめ飾りの由来から飾る時期、取り外す時期や処分について学びつつ、各家庭や企業の安寧を、願いを込め

て各々の個性が光るしめ飾りを作りました。感染対策をしソーシャルディスタンスを保ちながらも終始明るく和やかな雰囲気、会員同士や未会員さんとの交流が図られイベントは大成功。やなぎや花屋さん、村山地区の女性委員会の皆様、そしてご参加くださった皆様。感染者が増え緊張感が高まる中、ほっとする楽しいひと時をありがとうございました。



置賜地区
倫理法人会
取組みの報告

令和三年度置賜地区活動について

置賜地区長 島貫利春
CAMPAANY・島貫

九月の地区役員会にて、冬期のモーニングセミナースタンプラリーは未会員同伴の際一ポイント加算をするという那須会長の提案で普及に活かす事となりました。十一月、参加者二十八名で地区役員研修。晋道県会長による活動計画の説明後、松田山形地区長より「役員拜命後モーニングセミナー会場に一番に入場して会場設営を行なって参加者を待ち、会場が明るくなるよう準備した」という体験より心得を伺いました。

十二月、置賜地区合同経営者モーニングセミナー開催。おやじ日本山形代表 和田英光氏を迎え、「コロナ禍の中で」というテーマで、緊急事態宣言のなか尽くしてくれた人々、医療生活基盤を支えてくれた人のお陰で少しずつ状況が変わりはじめたという感謝のお話を伺いました（参加者四十二名）。令和三年二月地区合同三役会で中間目標の確認を行い、気持ちを新たに進んで参ります。

